

藤田邸跡の空間構成（ゾーニング図）

原 野里広原（のざとひろはら）

— 広がる芝地と主人庭・庭門の印象 —

南門からの点景となる庭門と内堀を設け、既存木を生かした前庭。
多彩な文化催事に活用できる明るい芝生広場。
前庭と芝生広場は「緩る／開く」の対比手法で構成した。
前庭の南門寄りに、広場の雰囲気を垣間見る竹林を配置。
藤棚から、休憩所・藤田美術館・多宝塔などの点景への見越し（赤松林・小松）。
周回園路は、樹木や地形の変化で景の移ろいを楽しめる演出。
既存の庭石を生かして、主人庭をイメージした庭を主園路沿いに設けた。
「毛馬の堤」へとつながる梅林。

池 池辺林間（いけべのりんかん）

— 汀線を生かす林間池畔の風情 —

池泉石組の遺構を修復し一つ新たな池泉イメージを再現した。
池泉への流水があつた可能性から、水源としての流れを配置し、遺構の流れを池泉からの流水という本来のかたちに修復。
池泉南端の既存林を残して芝生広場と野辺のみちを隔てた。
書院跡には休憩所を整備。池泉越しに傘型のあずまやを望む。

茶 静寂伝歩（せいじゃくでんぽ）

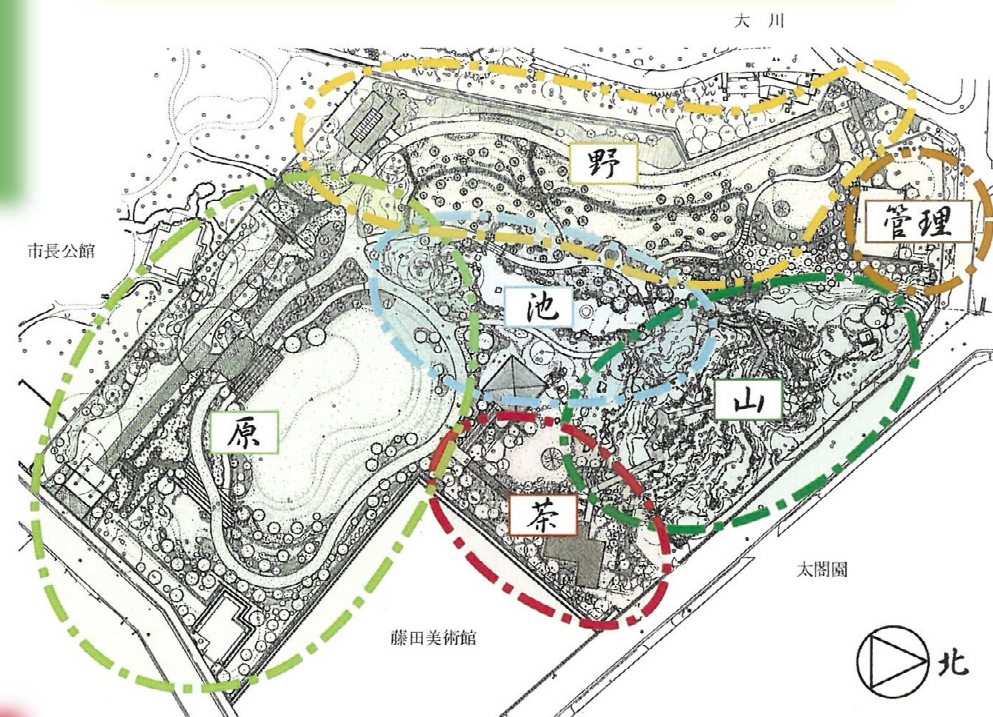
— 茶室跡の位置復元と露地の空間 —

茶室跡には催事に対応できる四半敷広場を配置。
その周辺は露地の印象を展開。
四半敷広場と趣きを異にする野点の小広場。
芝生広場からの導入路は、もみじを配した露地空間への伝い庭とした。

野 里野辺路（さとのべのみち）

— 大川への眺望と野辺のみち —

古の「毛馬の堤」の印象を表現する緩やかな登坂。
つつじの刈込を前景に、既設公園や大川が広がる景観を構成。
桃林や曼珠沙華などが咲く野辺の道や、つつじの咲く花見広場と、松林を背景としたさくらの小道。

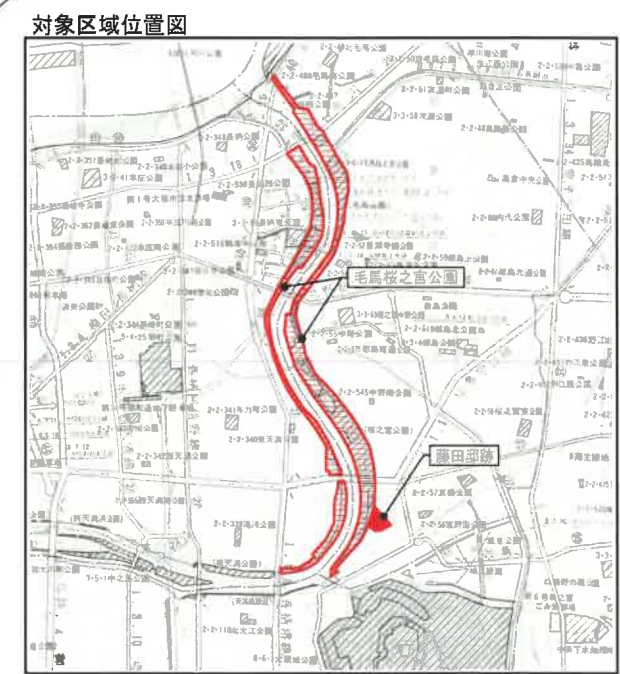


山 深山幽谷（しんざんゆうこく）

— 庭園遺構の修復と保存 —

庭園遺構を修復、保存、公開する。
遺構保全と遺構見学路のために木道を整備した。

注）設計当時の資料より抜粋して作成



毛馬桜之宮公園 藤田邸跡 計画平面図